

## カラフルな採血管



みなさんは、一度は採血をしたことがあるでしょう。「えっ、こんなにたくさんの血を採るの？」「血がなくなっちゃうよ！」という声を採血室でよく耳にします。そこで今回は、採血についてご紹介します。

当院では、注射器で採られた血液をカラフルな色のキャップの採血管（黄、白、緑、茶、紫、灰・・・）に入れていきます。それぞれキャップの色が違う採血管の中には、血液の成分を検査に適した状態に保つための薬が入っています。その薬は、検査の種類によって使い分ける必要があり、そのため検査の種類が増えると、採血本数も増えることとなります。採血管に入る血液の量は1～数ml程度です。ほとんどの場合の採血は2～3本で全量は、5～10ml程度です。採血本数が多くなっても20ml程度までとなっています。

みなさんの体の中には一般的に体重の1/13くらいの量の血液が流れています。体重50kgの人では約3,850mlが流れていることとなります。献血などでは、この約12%（体重50kgでは約540ml）の血液を採取しても医学的に問題がないとされています。したがって検査に必要な採血量の通常約10mlは、ほとんど体に影響がない量です。もちろん「貧血を起こす」ことはありません。ただし、「気分が悪くなって倒れる」はあります。これは、異常なほどの緊張から脳への血流がストップするため、一時的な意識消失が起きるのが原因で、血管迷走神経反射性失神といいます。有効な防止策は、針先を見ないで、採血が終わるまで眼を閉じるか、横を向くことでしょう。